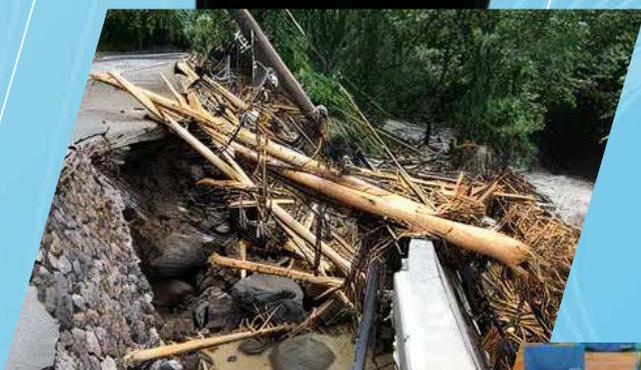
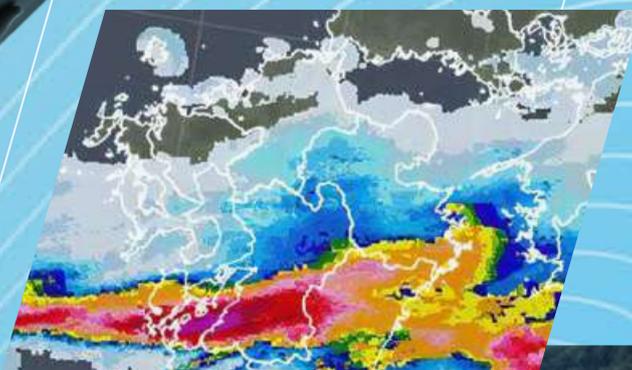


自然災害時の避難所における 健康危機管理

— 安心・安全で持続的な社会に向けて —



大分大学研究力強化推進プロジェクト 自然災害時の避難所における健康危機管理

(令和3年10月～令和6年3月)

〈プロジェクト概要〉

研究の背景

災害時に開設される避難所の環境は、避難者にとって必ずしも快適なものではありません。従来の避難所は、換気の不十分な狭い空間に避難者が密集し、見知らぬ人と近距離で隣り合わせ、体を十分に動かすこともできません。感染症のリスクも高くなります。トイレを使う回数を少なくするために水分摂取を控えると、脱水となり深部静脈血栓症のリスクが高くなります。また、慢性疾患の管理に必要な薬剤の不足も、避難者の健康リスクに影響しています。このような避難所の環境を改善し、避難者の健康危機の管理を強化することは、現代の危機管理（クライシスマネジメント）の上で、喫緊の課題の一つと言えます。

避難所における健康リスク要因

- ・住環境
- ・衛生環境
- ・感染症
- ・ヒト（避難者自身）

アクション 1 「環境」

環境実態に関するデータ収集及び衛生環境の改善

アクション 2 「感染症」

クラスター発生に迅速に対応するシステムの構築

アクション 3 「健康管理」

避難者のデータを活用した健康管理システムの構築



データ・情報等の提供・交換



減災・復興デザイン教育研究センター

研究計画

避難所における課題を「環境」「感染症」「健康管理（ヒト）」の3つのアクションを軸に再編し、土砂災害など短期・小規模の避難所における健康危機の実態の把握と関連するデータの一元管理を目指します（上図）。具体的には、3つのアクションにおいて取得された避難所に関するデータを、大分大学減災・復興デザイン教育研究センター（CERD）内の災害基盤情報へ集約し社会実装することを目指します（クライシスデータマネジメント）。これにより、これまでリアルタイムで共有されることのなかった各避難所の情報が、大分県と本学の災害関連統合データの一部として集約され、健康危機管理を支える基盤情報となります。

〈プロジェクトメンバー・組織〉

全体の統括・地方自治体への出力

徳丸 治 教授（福祉健康科学部）
柿本 晃治郎 URA（研究マネジメント機構）



鶴成悦久 教授

プロジェクトマネジメント会議

アクション 1 「環境」

理工学部 富来礼次 教授
岡本則子 准教授
濱川洋充 教授
栗原央流 准教授

研究協力者 酒井孝司 教授（明治大）
小島昌一 教授（佐賀大）
福島 学 教授（日本文理大）
加藤博一 教授（NAIST）

アクション 2 「感染症」

医学部 西園 晃 教授
斉藤 功 教授
八尋隆明 講師
花田克浩 講師

研究協力者 加来浩器 教授（防衛医大）
金子 聡 教授（長崎大）
新地浩一 名誉教授（佐賀大）
江島伸典 名誉教授（大分大）

アクション 3 「健康管理」

医学部 上村尚人 教授 倉成正恵 助教 林 宏祐 助教
石原優吾 医師 伊東弘樹 教授 龍田涼佑 副部長
山村亮太 主任 原田千鶴 教授 脇 幸子 教授
佐藤祐真子 講師 貫河原靖子 助教

福祉健康科学部 河上敬介 教授 阿南雅也 准教授 安藤敬子 講師
萬井太規 講師 菅田陽伶 講師

研究協力者 松本泰憲 客員教授（大分大・CERD） 藤田真敬 教授（防衛医大）
Kira Bacal 教授（オークランド大）

薬剤 遠隔介入
看護 援助